留学体験レポート

先輩たちの体験談集

受験生のみなさんはそれぞれに大学に入ってからこんなことしてみたいという願望や、また何ができるのかという疑問を抱いているかと思います。本学科では留学という一つの選択肢が用意されています。留学といっても行き先によって事情が異なります。そこで、留学について少しでも具体的なイメージをもってもらえるように、みなさんの先輩となる人たちの留学体験談を紹介します。

留学は他国の言語や文化を学ぶことができるだけではなく、自分や自国の文化としっかり向き合える貴重な機会を提供してくれます。そのため国際コミュニケーション学科では2回生の後期から留学をすることを推奨しています。期間は長期留学（9〜12ヵ月）・中期留学（3〜6ヵ月）・短期語学研修（3〜8週間）があり、英語圏だけでなく、ドイツ、フランス、中国、韓国、モンゴルなど履修した外国語科目に合わせて留学先を選ぶことができます。また協定校以外への認定留学制度もありますので、ぜひ自分に適した留学先を見つけて異文化を体験してみてください。

協定校等の具体的な留学先

派 派遣留学

UK

英国文化を感じながらスローライフ

私は大学に入る前からずっと英国文化に興味をもっており、留学先はイギリスと心に決めていました。滋賀県立大学には派遣留学の協定校の一つにリーズ大学があるのですが、私は敢えて自力で留学先を見つけることにしました。グロスターシャー大学です。9ヶ月間の留学期間のうち、前半は大学附属の語学学校で学び、後半は大学で学部の授業を受けました。滞在した街チェルトナムは、のどかな丘陵地帯とはちみつ色の家々が有名なコッツウォルズ地方の拠点です。丘陵の中には小道が続いていて、地図を片手にのんびり歩くのも楽しみのひとつでした。英国文化が現地の人から直接学べるように、ホームステイを選択しました。ホストファミリーに教会に連れて行ってもらい、クリスマスのミサに参加したり、洗礼の様子を見たりすることもできました。他にもホストファミリーの子どもの発表会でミュージカルを観る機会があり、たくさんのイギリスらしい文化を実体験することができました。日常生活で新しく出会った語彙や発音、なまり、表現のこと、体験した文化のこと、語学学校で出会った様々な文化的背景をもつ人のこと。4冊の留学日記がぎっしりうまってしまうほど学びの多い日々でした。

小川 夢 さん ● 4回生 ● 認定留学

GERMANY

歴史と伝統の中で

私はドイツのアウクスブルク大学に約10か月間留学をしていました。アウクスブルクでは、見渡せばいたるところに昔の建物や像が立ち並んでいて歴史を感じさせてくれます。大学には、日本語を学んでいる学生もいて、彼らと週に1度集まって勉強会をしたり、一緒に独日協会主催のコーラスに参加したりしました。個性豊かな友人たちに囲まれて、ここでしか体験できない一味違った留学生活を送ることができました。冬期休暇のときには、ドイツ中部に位置するレムシャイトという小さな田舎町でホームステイをし、クリスマスやお正月をドイツの家庭で過ごす機会にも恵まれました。イースター休暇や帰国前にもホストファミリーを再び訪問し、現地の重要なイベントをドイツの家族と一緒に楽しむことができたことは私にとってなによりの思い出となっています。留学中に多くの苦難を乗り越えられたのも、帰国後にドイツ語技能検定試験の準1級を受験し合格したのも、ドイツで出会った人たちのおかげで、感謝の気持ちでいっぱいです。

宮本 芽依 さん ● 4回生 ● 交換留学

FRANCE

一期一会を楽しむ

私はオルレアン大学付属の語学学校に一年間通いました。オルレアンはパリから電車で一時間ほどのところに位置しており、大きくはありませんが、おだやかで落ち着いた雰囲気の街です。フランス語を学ぶ理由は個人によって異なりますので、授業では毎回たくさんの様々な意見が飛び交い、それだけにいっそう興味深いものとなりました。一年間フランスで過ごして驚いたことのひとつに人との出会いの多さがあります。フランスでは友達の友達は自分の友達という感覚があるのか、みんなでちょっかいをかけるときには必ず初対面の人が一人は混じっています。はじめはそのことに戸惑い、話しづらいと感じていましたが、慣れてくると今日は誰に会えるのだろうと楽しみになりました。この経験からフランス語の運用能力を磨くことができただけでなく、誰とでも話してみることの大切さを学びました。疲れていても人が集まる場所に誘われたらとりあえず顔を出してみるなど、新しい人と出会うきっかけを大切にしました。その後疎遠になるとわかっている人たちであっても、一緒に楽しい時間を過ごせたのは今でもいい思い出として心に残っています。人との出会いや自分自身が楽しむことの大切さに気付くことができたこの一年は私にとってかけがえのないものとなりました。

増田 珠美 さん ● 3回生 ● 交換留学

MONGOLIA

Only Oneの体験ができる国

私は一年間モンゴル国立大学に留学しました。この期間に勉強はもちろんのことですが、現地の人たちとの交流もし、貴重な体験をしました。その中で私が「これだ！」と思うものは旅行です。なんてありきたりだと思った人もいるでしょうが、モンゴル国内での旅行は一味違います。国土が広いため、移動するときは車で片道5時間以上走るのが普通です。そして留学先の大学がある首都ウランバートルから少し離れると広がるのは雄大な自然。その道中では広い道路の真ん中で写真を撮ったり、寝転んでみたり、ヒツジ、ヤギ、ウシの群れが道路を横断しているのを待ったり、日本ではなかなか体験できないことばかりでした。留学といえば勉強が第一に来ると思うかもしれませんが、現地でどのような体験をするかが大事です。モンゴルであなただけの貴重な体験をしてみてはいかがでしょうか？

佐脇 里彩 さん ● 4回生 ● 交換留学

USA

「変わり者」との出会い

アメリカの中西部、山も海もない陸地にミズーリ州はあり、私はコロンビアカレッジに10ヶ月間留学しました。校内イベントは豊富ですし、一日中友達とゲームをして過ごしたり、図書館にこもって勉学に励んだりと、やりたいことは徹底的にさせてもらえる贅沢な環境です。

留学生活で最も成長を促してくれたのが人との繋りでした。私が大学で交流してきた友人のなかでも、妙に気の合った「変わり者」を紹介します。彼は謎が多く、周囲も彼の年齢や素性などを知りません。何かを議論することを楽しむ姿勢に影響を受け、すぐに意気投合しました。また、彼は人並み外れた記憶力をもっていて、尋ねれば大体のことに答えてくれました。質問の後には必ず理由を尋ねられ、議論が始まります。その時の自分が最も考え、豊かな時間であったと思います。

留学生活ではたくさんのハイライトシーンがありました。しかし振り返ってまず思い出すのは、やはり人です。皆さんも留学先では「変わり者」に出会ってください。得られるものは想像を遥かに超えるはずです。

長崎 眞子 さん ● 4回生 ● 交換留学

AUSTRALIA

フットワーク軽く！

私は約9か月間、オーストラリアのシドニーへ留学しました。シドニーは、冬はそれほど寒くなく、夏はカラッとした気候でとても過ごしやすいところです。オーストラリアは多民族国家ですので、町中にはオーストラリア人、中国人、スペイン人などたくさんの国籍の方がいますし、また私が通っていたシドニー工科大学にも色々な国からの留学生が来ています。私が充実した留学生活を送ることができたのは、大学の中だけでなく、外でも積極的に行動したからだと考えています。プライベートでも、英語を話せるような場に足を運んだり、幼稚園でのボランティアに参加したりしたことで、年齢が離れている人からもお話を伺うことができました。せっかく留学という機会を得たのであれば、危険なことだけは回避しつつ積極的にフットワークを軽くして行動することをお勧めします。オーストラリアにいる方は優しい人が多いので、きっとたくさんお話をしてくれますし、「手を貸してほしい」という意思表示をすれば快く手助けしてくれると思います。

小島 早智 さん ● 4回生 ● 交換留学

TAIWAN

台湾で触れる「人の温かさ」

台湾は日本と気候もそれほど変わらず、日本のお店もたくさんあったため、とても暮らしやすい国です。約300円でバスが一日乗り放題であったり、レシートに宝くじがついていたりと日本に取り入れてほしい制度もたくさんありました。私が留学中に1番感動したことは、台湾の人たちの「温かさ」と「積極性」です。大学の中で現地の学生が積極的に話しかけてくれるだけでなく、店員さんたちも私が日本人だと気付くと簡単な台湾語を教えてくれました。道に迷った時に助けてくださった方は小学校の教師をされていて、勤務先にも招待してくださり、冬の伝統行事となっている「湯圓」という団子作りにも参加することができました。また、留学先の国立中興大学ではそれぞれの出身国の民族衣装を身につけて行う「留学生パレード」というイベントがあり、台湾以外の国の人たちともコミュニケーションを取ることができ、とても良い経験になりました。半年間という短期間の留学でしたが台湾で触れた人々の「温かさ」によって、とても充実した留学生活を送ることができました。

善利 亜紀 さん ● 3回生 ● 交換留学

SOUTH KOREA

大切なのは語学力より勇気

私は韓国に一年間交換留学をしていました。この限られた留学期間を無駄にしたくはありませんでしたので、できるだけ色々なところに行って、色々なものを食べて、たくさんの人と出会いたいと考えていました。また、私が通っていた光云大学は、ソウルの中心地から地下鉄であれば20分ほどの距離でアクセスしやすいため、積極的に外に出て行動しました。その結果、韓国人の「情」と、自分で行動することの大切さを知りました。韓国の人々は、最初はかなり不愛想なのですが、仲良くなると、徹底して面倒を見てくれます。日本人としては少し近すぎるぐらいの付き合いかたに、初めは戸惑いましたが、それが韓国人の仲間に対する「情」であるとわかり嬉しくなりましたし、やはりそのような濃厚な友達付き合いの中で語学力も飛躍的に伸びました。友人関係を築くことは、特に外国人にとって簡単なことではありません。しかし、待っているだけでは誰も来てくれるわけもなく、何も成長することがありませんので、自ら動いて自分の存在をアピールすることが何よりも大切です。勇気がいることですが、そうすることが留学先で自分が成長するための一番の近道だと思います。

北野 奈津子 さん ● 3回生 ● 交換留学